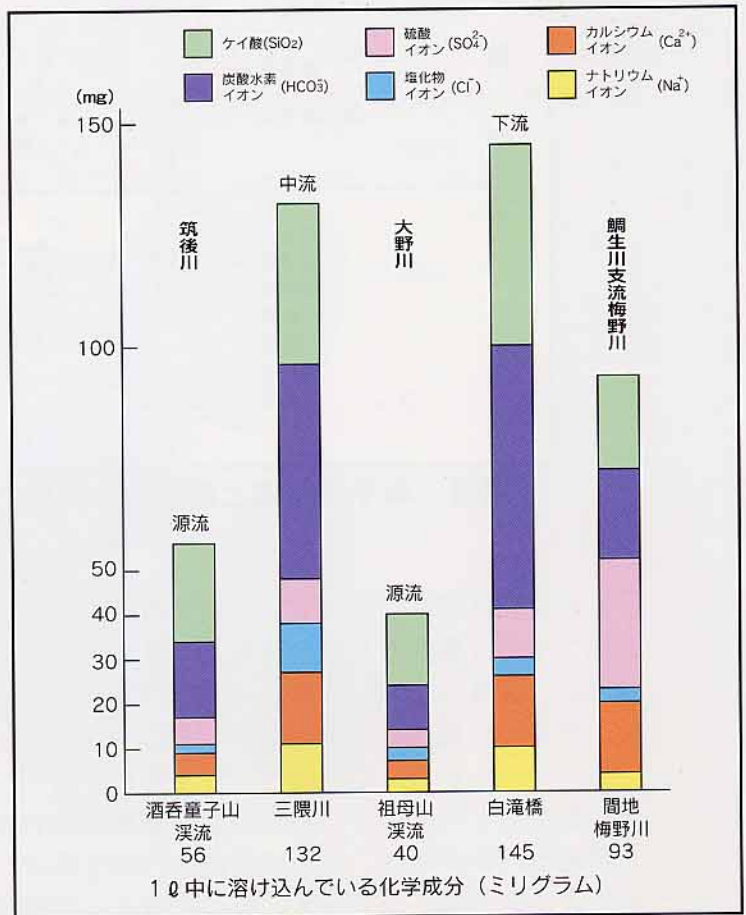


酒吞童子山地域の水環境

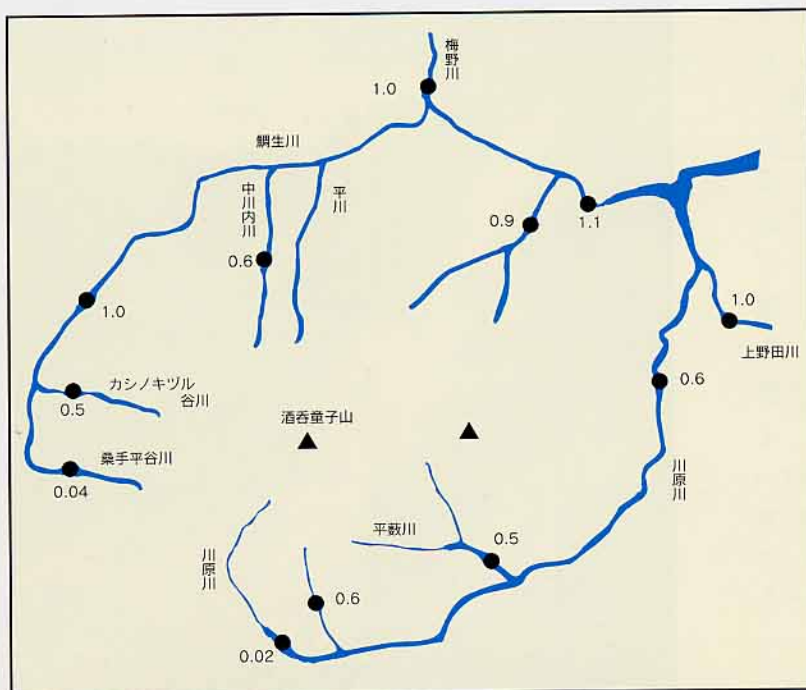
溪流と河川の水質

酒吞童子山から放射状にたくさんの溪流が谷を刻み、北斜面では鯛生川に、南斜面では川原川に流れこんでいます。これらの溪流や川は筑後川の源流で、溶解成分量は少なく水温は夏でも20℃を超えることがない冷たくて清らかな清流です。

溪流の化学成分は1リットル中約50ミリグラムですが、下流に行くに従って増加し、日田市三隈川では約3倍になります。そのようすを棒グラフに示しました。この図には比較のために大野川源流祖母山の溪流と下流白滝橋の化学成分量の違いを示しました。源流と下流はどの川もだいたい同じ傾向を示しているとかかわかります。



源流と下流の成分量の比較



溪流や川のCOD

また河川の水質は流域地質の相違によってかなりちがってきます。例えば、鯛生川に左岸から流れこむ梅野川や川原川に右岸から流入する上野田川は硫化変質を受けた黄かつ色の岩石が河岸や川底に露出していますが、これらの川は酒吞童子山の溪流に比べて明らかにカルシウムオンや硫酸イオンの量が多く、硫酸カルシウム CaSO_4 型の水質を示し、溶解成分量も多くなっています (グラフ参照)。

清流をつくりだす森を守ろう

この地域の川は、人の生活による川の汚れを見る指標CODの値が1リットル当たり0.02～1.0ミリグラムと極めて小さいので、人為汚染のほとんどない清流といえます。

この清流を生み出すものは、年間3000ミリをこえる豊富な降水量とそれに支えられる森林や土壌とそこに生存する多くの生きものです。これらは互いに共生の輪の中で安定した生態系を維持しています。したがって清流を守るためには森を大切にしなければなりません。

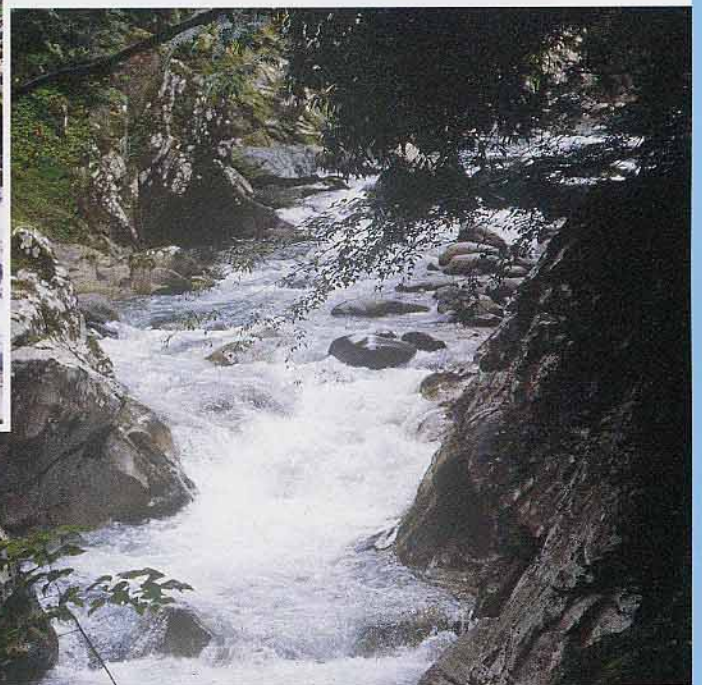
また、含有成分量が少なく清らかであるということはそれだけ真水に近く、汚染に対する抵抗力が小さいということです。レジャー開発などで人為汚染物質が流れこまないようにみんなで川を守っていくことが大切です。



平川の滝（中津江村）



かつ色に変質した岩（上津江村 上野田川）



川原川支流（上津江村 津留）